

要 望 書

和歌山大学 学長 小 田 章 様

和歌山大学に観光学部の設置と和歌山電鐵貴志川線を 演習線として位置づけて頂けますよう要望いたします。

学長様には大学教育を通じ、人材養成のみに留まらず和歌山県のより良い環境づくりのためにご尽力いただき、我々県民の幸福のために寄与されておられることに対し、敬意と感謝を申し上げます。

私たちは南海電鐵が撤退を表明した貴志川線の存続を願って平成16年9月に立ち上げた、『貴志川線の未来を”つくる”会』です。

ご承知のとおりお蔭様で、行政の方々、南海電鐵や岡山電氣軌道など関係企業の方々、沿線住民を中心に県民の方々、また全国の多くの方々のご支援、ご協力、ご援助で存続が決定し、和歌山電鐵株式会社様により4月1日から新生貴志川線として走っています。

貴志川線は年間200万人弱の方々を利用していますが、特にこの中では日本の将来を担う学生、児童生徒が多く、また高齢者等いわゆる交通弱者も多く利用している、なくてはならない公共交通機関として存在しています。

貴志川線沿線には伊勢神宮の八咫鏡と兄弟になる日像鏡と日矛鏡の2枚の鏡が祭られている日前宮をはじめ竈山神社、伊太祁曾神社などの歴史的にも貴重な社寺も多く存在しています。貴志川町は紀州の明日香と呼ばれ、伊太祈曾周辺には世界遺産の熊野古道も通っています。一方和歌山県朝日夕陽百選にも指定されている平池公園や四季の郷公園などの多くの公園も沿線住民に親しまれております。このように沿線は歴史的にも文化的にも貴重な地域であり、貴志川線とともに残していく必要があります。また、自動車依存社会が進み、世界的に温暖化、空気汚染など環境問題が注目されている中、環境にも人にも優しい鉄道を、我々の貴重な財産として、今後も末永く残していかなければならないと私たちは考えています。

つきましては、和歌山県のバランスの取れた健全な地域づくり、活性化のため現在和歌山大学で計画し、進められている観光学部の設置を是非実現していただき、観光の現場学習の場として、貴志川線を演習線として活用し、若い学生の柔軟な思考を新生貴志川線の発展、育成、利用促進のためにお力添えを頂けますよう要望いたします。

平成18年7月7日
貴志川線の未来を”つくる”会
代表 濱口晃夫